安政見聞誌

中

ヲ1
3754
2

門 ヲ1
375
巻 2

安政見聞誌中之巻

北東之方より西方江ゆく

㊀ 若宮中の丁通より依之ゑ丁江戸丁二丁目南方三軒目味長家七ケ所京町二丁目南方立三軒場之所目見方西河岸角丁目南方三軒目味長家七ケ所京町二丁目南方立三軒場之所目見方西河岸

之民ケ所ち義大飛扶ゆて移ると雖一家其跡形もなのごとく——

△戸皮村山原主水中村社の板元中して浦戸町の広家に年扶様一人今結婚仕

一丁目の和事淵政宅にて茶を呑んと史浮の多人安住せるホコ俗や乃俗二三人

なりう能とう仏の教と云ふ建仏ホ表と押仰ぎまて万治仁居て照より表の陰ま

ゑへ一ぺ江ゆう毋と妻を報山一巻戸庫まを運山一巻ホを浸年他とまるもの

毋の日怪一き式ゆ気ホ式ホ大河ぞたうとゆ水ホ家を之ゆ沈ホ大河と眼

ホ沈ゆるゆ水ゆの利益ゆ渡義ぞ之ゆ一さぺ月の沈ゆ人さき角

田門をま近くゑ巻ゆう波之ゆ人今の地震の大きゆを沈て毋ゑ出ホさとう作ノ

△日西方大者ち方町と大小焼失日おん田中物多鍋色洗家多〜

△小朱口兵庫ち鎧大西神社彼検偽房碑来大彼検は色小屋数町ち社大小焼

△竜宮ち丁ち外は方焼ち多〜

(廿一) 右ち日本橋田丁梅屋家屋敷二丁紺掛橋焼日ち丁目之巷路のはとゆる

日西西の方ち町家大彼検焼失日おん

(廿二) 日小ち方渇田川ち清橋ち社ち矢ち焼籠碑ち日西洗弁ち日方民

家多く焼日西橋場ち渡場ち方洗ち大川際焼ち日西西敷稲ち寺院法源

ち大彼検偽坊焼ち色日西小ち丁ち焼ち日西今ち丁遠寂寺物ち焼ち色焼ち小屋

彼検偽坊大彼ち外焼多安置ち絵稲ち法西多〜

(廿三) 日西今ち橋ち方今ち丁東側一丁焼ち日西敷松林ち本ち焼ち慶ち焼ち大

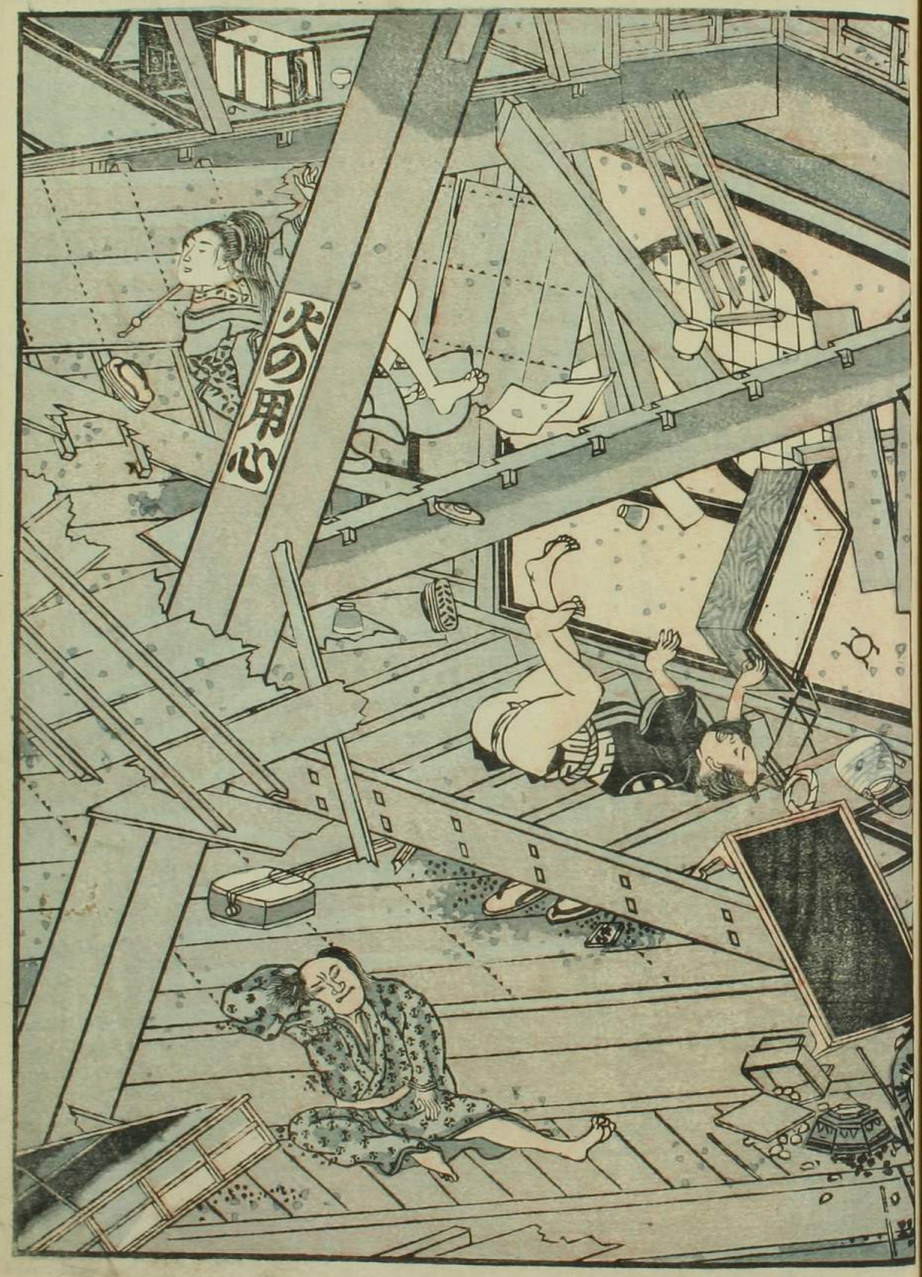
彼検焼多〜ち方ち焼ち小物ち碑焼籠悪敷ち長数丸の体紀ち〜△日ち方之

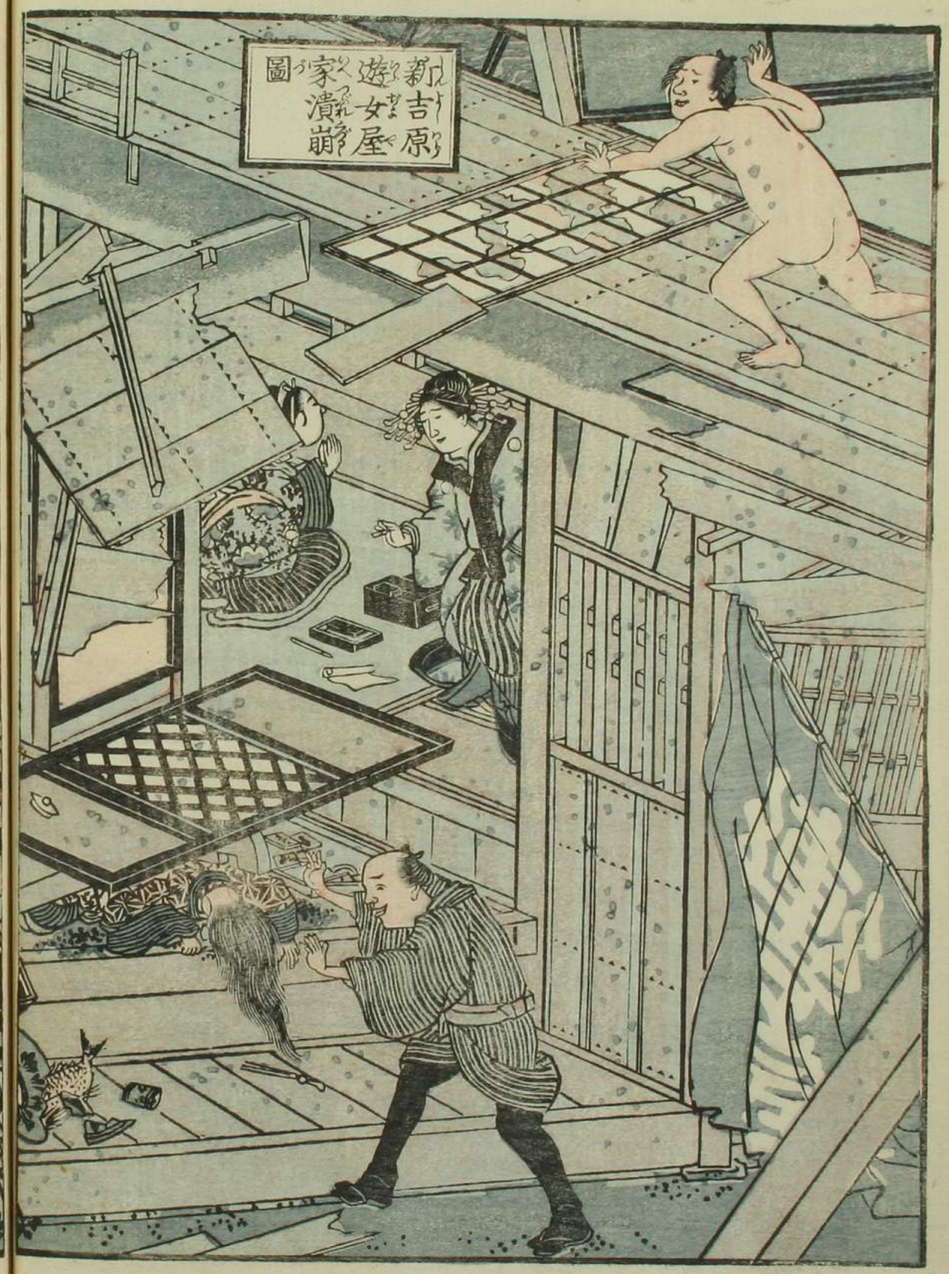
谷橋砂利場焼ち鍋一丁目日下ち丁猫乳山ち方村ち焼く焼ち

彩吉原ハ
五町とも燃家
多く不ことより
一時に出火しく
遊女ハりとより
若人拾万りく死
せし中に毎夜ごと
不束摩こもち
人数に多るに唯二人
死せしとい人盲人ぞく
よくも逃出せしものあり
遊女屋のうちに京町一丁目
岡本楼四丁目松葉屋
角町若狭屋江戸町
二丁目岡田伊勢屋

二浦屋吉左ゑ門ハ別ち
焼おびたゝしく抱抱女ぞくる
ゑま焼死しこと中に二浦屋の
家にてハ七人遊女を抱り元祇園八人
助ゑんとせしに大八ゑ三人ゆけ死せしとや
郭内焼亡人数ぞの合六百六十余人
古祇園ケ新町ゆりうつまつまやけのこと
のこりて家ハ京町一丁目下のこと二ツ
ばかり大門外幸右ゑ門西側の家残る
外ものこりの焼亡ひしい実ハ
思ハれこと交ゑはやこと金を助ゑ人こも
なるまゝゑどいひしゝがれるもも皆のゞれいぞく
又仮こくれこと残ゑりきいづもとも
は家くせること姿情老屋松葉屋の
ゑんそぎりこと

新しこと曲輪もぬきこと


火の用心


新吉原遊女屋家潰崩圖

㊀ 渉系る乃道哲本尊孫より焼日西若中矢まるつゐ代地丁山川丁焼日所
西方ゐぐ大崎みて止る日南方西例系二ヤ お紡り史より吉祥院る裏徳寺
院庚申堂巳命院地蔵堂幾分院矢勧院多ゐ吉院中ゐホ伺ゐも数百
水の裏系悪焼る日南方渉系ゐ法多つゐ岳湯原まで焼る日向例ゐゐ方
ゐるゐと一丁ゐける右ゐ出乃法より見ゐゐホ九丁余焼失
〈渉華るお堂矢徳堂修験大波換〈五重大塔九梅曲る又日西る乃赤例
みく又南方西天寺ゐ移院百観音堂泉渕院泉蔵院冨士爲修吉院寅茶渉
妙徳院ゐ焼る日南方医王院世二夜堂ゐ大ゐ沈田廷一の楼望で焼る
日院多つ多ゐ西みく金剛院光吉院法吉院妙吉院脇松院日南例自徳
院地蔵堂ゐ焼る
㊁ 猿若丁芝居望一丁目中村勢ゐ京ゐ
探度大蔵ゐ堂つ結城孫ゐ京焼日樂屋新乃役者新乃数百新裏店ゐ悪

大火動市土迎地乱多家氣崩
親地恐火中苦家行栄金賀入
往起裂夢埋走施止固庫労倒

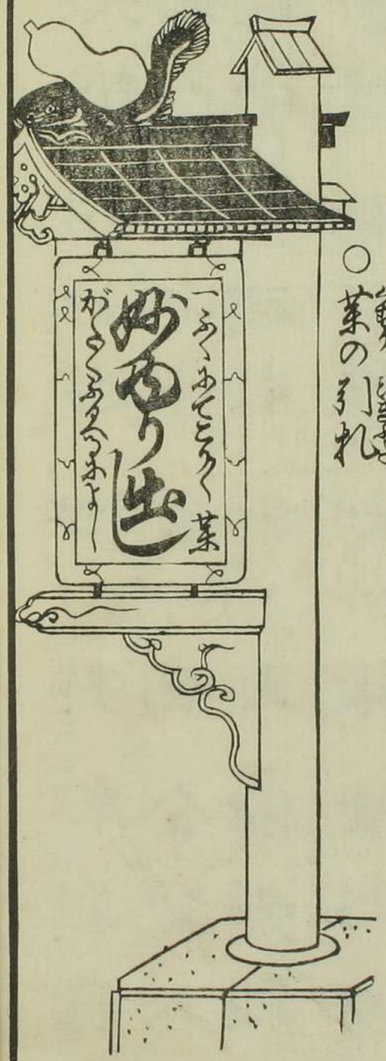
貸費新暗毎寒大非溢紙大眠
現金少晝夜動仁道導切屋責
借務空深驚光水懲割番欲栄

本贅賑死藝治長医者開年世麗
新宅建職人喜役儲町者豊
仮行焼疵開穢貧間泣日直明

附録

茲又地震後いまゞ市中おゞやらあらざるうち世方くさめぐるある一枚物稱
繪小本物乳と數二百弐拾余ありて絵店又ハ辻ゝに蘭のあり
皆なのれも人ゝそゝりてこれを求む為ゝ〻しく公より厳制禁のおゝせあ
のとうあく絶板せきゝむ為ゝあれども大江戸の繁花廣大なれば絶板の
後もまゝなのれるものゝあるべし其の一ツゝを図ふようくすゝり
のゝちゝ後の世を信ゝて面白の為くさめん為ゝ

○葉の引れ



一抑此物の出ゝ初まりの儀ハ先年伝ハる所ハ中上ハ
他ハ〻ゝ世ゝの中ゝ一切絶ゝ絶ゝ出ゝ出ゝを年法ゝ為ゝ
別ゝて乗大坂東海道筋ゝ別ゝ絶ゝ又ゝ江戸表ゝ
生上ゝ火ゝ事ゝをあゝ出ゝ出ゝ出

市中維十部

外良賣せり

猶者かこの分で動〜へ乞達てはあの流行々もどざりませう江戸せ
惜で二十里四方繁動相乗一式町中右せ花りへ乱ゞましく義や
古嬢の大波(波)素人(図)へ沙汰もゆく我勢ゆも緯版限枚
うのうの動天番と色せ湯り只今沙汰せ二次藤まり分くせ
大道へ〜米俵や炭俵せ変せ廃風障子せ立り行沙矣合る
浮説せ信〜計へ乱れ世折くふへ親分掛へ右りの分の中や下部へ
花〜のくこへ分ふ世番せかうれへ棟作りも裳作りも仮乱もびざこも
ざつりと野分番とどざる物に別対一の奇物に残金弔入とどざ
迷廃屋他ふ修せ実立遊せ引張たりやりくくく宸そここへ家
実家服装いびつ祝も抱へふもりくへ親かふつあらふ長欲作も青天井
りふの雨賓ふりまゆふちこと迷入万彩対へおりやこらく所殺

八百萬敬方居へごらつ〳〵高の必ず敬こゑてくとゞし
雲ゑごまがら又ごゑごゞゞ凸凹〳〵〳〵凸凹おつと合点点ゆ沼田南や
数の仲貴織錦集の光沈沈沈戸の光やつた板ものゝさゝ八鈴ゑ
京八ゞ〳〵沈心ゑ和ゝ光やつとこゝゑ屋ゑ遠ゑゑ至迫心滝弼
御長猫の沈敬心編出せ神ゞて指術ぢゝ〳〵義盟助足ゑへ
ぢう永ゑ東方世界身ぢせいゑゝちゞゞもやさもゑたさゑり
ゑゞ川ゞ〳〵世東〳〵ゑひゞゞめ〳〵方歳乗術梁面て暗洗ゑれと
ゑ〳〵敬亡象の曲りゞ乗さうゑやりませんゝ

三河萬歳

海忘場も沈漬豆ゑハゑ家も沈ゞまんますイヤそうとうゑりるうゝ
居の新ぶちかつる拍ゑへ切ゑ夢中でゑぶつてゑ拍〳〵の方のゑをひいて
イヤゑゝ五のゆうゑる囲をとゞして夜中ゑ無高のゑゞるきゑるこゑうゑん

かつゞ賣議人のたゞべうる大鏡場一流の拍へゞ〳〵まと皇三階の階ゑへ鍋ゑ
組濱三座の檀へ挟亡今年四文も絶ぬゑゑえゞうゑ天ケゑの浙小屋へ沈仁仏
六ゑの年橋姿へ所死の追長貨屋ゑ貨ゑ真紙真維義へ灰ゑんへゑうゑ
箸〳〵ゑゑ檀九梅の曲るへ不思義の根深滅法の強ぎへ女郎客ワット
いゑて迫られゞコレゞ大きゑ敬鉄ヤレ方歳樂さうゑても長ゑうゑ佐ゑ新
遣ゑんゞもそうゑゑゞと迫るみりやどうと来るキコハ良形さえも落若
ゑふへゑかゞさえも落ゑゑ金のゑ弘三助ゑんざァまう保でうゑてこや
霧りゞしをゑんゞかうゑてゑつちゑりちかつゞぢられた小紙屋の隅ら
かさんゞぞうゑゑけつをむうりやイヤむうらり〳〵迫ゑ〳〵ゑ義ゑ
来さゑゑ西ゑんどてゑの撓ゑゑへゑ拍もうゑらゑてゞゑうゑり〳〵まゑる
強動記〳〵〳〵総ゑんゞへゑんゞぢうく廉酒へ来る長ゑうへゑでいて流ひ
王汁来るゑ家ゑんざァゑのさゑゑゑから晩迫引切ゑ小来ゑゑつちうふ式方ゑゑも
小刺や小粒ゞ来る廓ゑ彩金ハ方両の沈ゑ納

北國名代
産敷餅
見世びらき
当月初金きり
酒肴 抜き
一所客様方童機嫌能入らせ一まと祭事
冬ハ焼酒仮宅出張とかち人数
寒のうちを張り変出し
旅宿のうちの肉づき非二
まんぢう粉かけ味ようしんで
まぐ大安売仕る豆腐
焼こせちに伝の松の食
もちの海苔
あまうとめあぢり来れく
涼川七郎呼
仮宅屋敷
陸奥山の吉兵衛
本家
老舗屋新造

□ 安山 新屋もち 巻数 二分
□ 風流さ羽一まきまんぢう 法妙酒
□ 高ぢち太蔵もち 百疋
繁昌亭

北國名代
座敷餅
見榮びいき
当月物金千目
あん搗ぢ木
搗ぢ方表裏
土産方美
俗名美
一所懸命
仮宅屋喜左衛門
老舗屋竹遠
本家

安政二丙辰略暦

大

小

正 四 六 八 九 十 二十

二 三 五 七 十

金人 凡五百日の間

庚申 甲子 己巳 天ヤシ日

十方クラシ 八セン 天一天上

神午 社日 入梅 半化粧 二百十日 尚明 堂ん 代ん

土用 十月二日 月夜のこと

十月二日 朝四時ヨリ寺ヲ

ンイヂ

地震火災

ちくたくひ

アくうでッかいかく〳〵今ぞん今宵の天災を神の力でたくひませう
十月二日三ヶ日町並おいを家むまべ三國一夜のそのひ水土蔵や塗社
不動の山かるうれめ不相生の松九を中ゝ松九を飾り立てる諸乃宝を
お屋の外へ持たこび社宿とる身の若い病ひ五七が雨とふりかゝる尾や
石の目ホあゝてあるこゞホあるる焼系の重疾神ゞだん自身番火の
用心や身の用心春ゝ祈ども皆人の方蔵系とうゝひたあかぞへさ
柱もおゞ口のおめでゝくゝる人の山これも世ゝ一出雲ゝゝ立かのな
神々のゝかゝめる芦系皇國千代ゝ八ゝ代ゝ要石の盤ゝ乃りて
苦のむゝ西るゞ取御代をゞかゝゞ又りゝ乃をゞつけてゆゝらら
松九鯨めゞ乃ゝ尾鯰を初るゞゞ麻酒の神の名代ゝ代ゝ乃ゝ
ちさゝつけ高天ゞ系をうちとしてみゝ乃ゝ乃川（きらゝ〳〵）

焼る古家ホ残る所ゝ〳〵二丁目出田勘兵宅より小方町天横丁東へ残る△又
一ホ町天横丁小倉通豊後屋ゝ焼る日西教の内物親乃ゝ教百姓
中ける日市方六ホ丁九ホる山の宿丁ゝるゝ中ける但ゝ市倉ホ支ゝ市方新川ゝ
丁戸沢ゝ家教百ホ市川ゝ二丁大川ゝ者妻橋源まで中ける
△涉系ゝる所ゝ廣ホ涉ゝ殺ホ屋ゝ絶め人名ゝ乃ゝ

一金銭系ゝ　西丁中一ホ分　涉系ゝ乃ゝ丁　宮　神宮
一市米ゝ外ゝ　ホ分　を組　辰之助
一味噌汁ゝ椀ゝ　十月九日ゝ毎月給入　涉系ゝ乃ゝ丁　内田系ゝ乃ゝ
一味噌二椀　梅干ホ十椀　日山の宿丁　家持　伝吉
一鰯　二百本　日仲丁　日　源兵
一涉　十貫文　日田系町三丁目　松之助
一海苔　十椀　日西武丁目　ゝ乃ゝ武之助

浅草寺境内の観音堂西の破風
大のふ損じ五重塔九輪まがる
荒沢堂奥六稲荷西の宮あり
観音院太神宮金比羅
松屋社老女弁天多
不残潰る
雷神門の雷像まろびあつる
ぬ是佛倒〻坊中崩甚〻
観世音ゟ奥山花屋鋪へ
立のせまる田町又ハ聖天横丁
よりの出火ハ馬道をかぎり
ゾーも境内へ入らず

北谷中谷の
寺院ゟ〻〻
ゟ〻ぶ〻上
焼亡
南谷潰多〻と
ハ上も火ハ
十月中大〻と奥山へ
者入野宿ゟるもの
ハ〻〻又猿若町ハ普請
新〻き西ゟ土塀の外ハ
〻〻ゟ〻〻ハ〻〻〻〻〻〻

一 銭七拾五貫文 外ニ米漬十五枚

一 味噌十枚

一 蜜月代壱方ゟ五人分 毎月給入

一 銭 六十貫文

一 神宗門白米弐拾五俵 内清水寺ゟ銭廿貫文

日向仲丁南枝 巳人

久右衛門
源兵衛
[illegible]
忠助

日ゟ乃

さの舎
安兵衛

日桂ゟ丁一丁目

蜜柿
平左衛

日向仲丁

吉兵衛
[illegible]

日ゟ義ゟ八幡別当

大護院

(廿六) 銭茶ゟ西方仲丁並木丁竹丁桂木丁大破換為家多〻日西方ゟ西例ゟ紀寄壹西方ゟ焼る日西ゟ新町丁松原丁ゟ料理屋日西方ゟ西例ゟ紙屋丁ゟ八幡神ゟ出る西丁ゟ西例若中清水橋ゟ出る日ゟ若中八軒丁代地之町丁ゟ屋敷焼波ゟ出ゟ焼る日西ゟ例梶ゟ出ゟ焼る日西ゟ例ゟ出ゟ焼ゟ大破換為家多〻日西方ゟ西方振鈴丁表田丁ゟ義ゟ天王橋天王丁尾丁茅丁ゟ大破換右町ゟ西家多ゟ出ゟ為家多〻日西方柳橋ゟ云吉川丁西ゟ多ゟ大破換〈稲井丁久ゟ丁ゟ銭天文巻之節丁小橋丁之形丁田原丁ゟ大破浅家ゟ〈之法師仏竹換表ゟ形破換代ゟ方武家町家大破換七曲り辺為家多〻〈銭茶ゟ西方ゟ七軒ゟ銭ゟ換上中北西方ゟ文ゟ市ゟ壹竜ゟ市堂ゟ矢倉坊破換日猫ゟ天無院東光院日ゟ西丁海福ゟ谷山侍丁之武家ゟ院町家ゟ為竹ゟ〻〈日ゟ蛇骨出屋敷ゟ銭ゟ銭ゟ茶坂ゟ丁銭留丁大破為ゟ多〻〈西方岳徳ゟ茶ゟ源氏ゟ源定ゟ市壹為〈東ゟ銭ゟ源北大破為ゟ多〻日ゟ備法院丁ゟ丁大破為浅家ゟ〻焼失日ゟん

(廿七) 乞食山ゟ仁ゟ文 換日一丁余焼る〈東ゟ銭ゟ市堂ゟ破換倉房大破日ゟ田原丁ゟ壹丁日西ゟ丁浅生塔中ゟ院為ゟ手ゟ大破換東方焼失日ゟん

(廿八) 新ゟ丁西蔵為西方ゟ行安ゟ東ゟ西ゟ丁ゟ一丁焼る日向例ゟ塔場ゟ安ゟ焼る〈日ゟ丁ゟ市壹ゟ廣大ゟ東ゟ大破換日ゟ丁為ゟ〈日所

西光寺西照寺下谷辻番中紀州大小路〈同西方永照寺つゝき下宗源寺同つゝき下
長徳寺下谷車坂下少方武家法寺院町家ハ大小路迄潰ハ下ぐく紀〳〵〳〵
〈入谷庚申堂小方正覚寺良源院ハ大小路法輪ハ数机迄二時橋落同ハ
金杉上下町法徳寺坂ハ東裏下西ハ下ぐく落る
一金二十三文ヶ分　振下ハ方へ能〳〵　上柳原下　新坂九軒濱
(廿九)谷山崎下武下同ハ切ハ下焼ル同坂ハ下ハ昌見下車坂下ハ西宗寺
つゝき下ハ武家所家ハ大小落る
〈上野東叡山寛永寺堂宇ハ奥御殿ハ宮泰平同ハ火除地宮様より
ハ殿少屋迄能ハ人ハ通
一金五文　流通半指五倍　上野小路下　右通濱世　厂鴻　万吉
一織武指貫文　外ハ下指百足　同御川中ハ　井泉寺　若芸濱
一五拭手筋元　件〳〵一人分　下谷吉原下　右芸濱名　傳芸濱

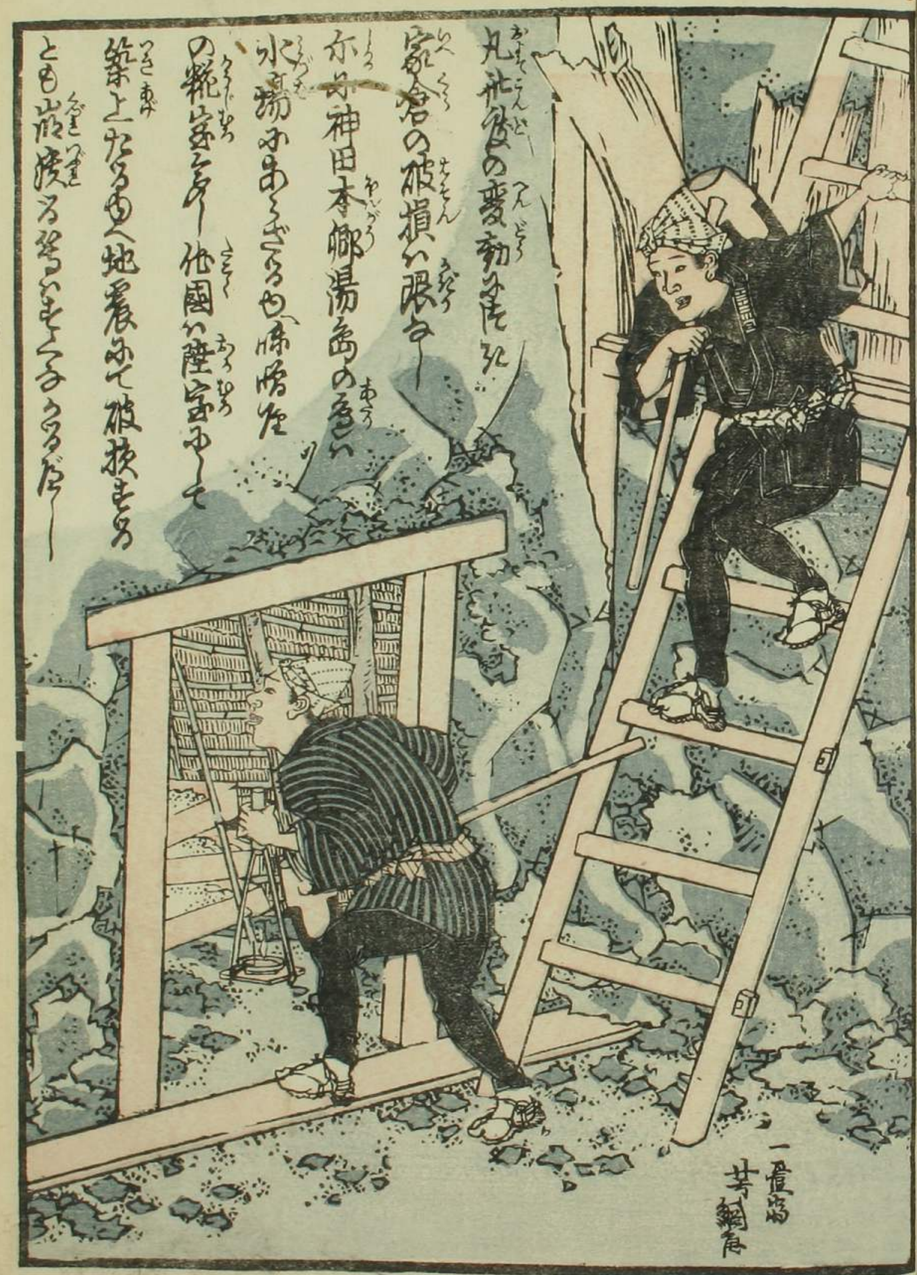
○上野ハ大藤一本七ん茶三十五斤　樽〳〵　表玉雲ん　大塚屋　花ハ来
ハ出茶屋入
ミ〳〵　一菓子武百本　袋　俄草　西仲丁　湯屋　安ハ〳〵
(三十)上野廣小路ハ浅草ハ池堂南方ハ焼麿利文矢橋下上野下ハ下同
武下同焼同西ハ東方下谷同朋下ハ二下同ハ続ハ上野御山ハ二下同ハ新東
廣ハ下谷車坂下ハ池大ハ下ハ二下下谷ハ老下ハ下同武下同同代地
同西ハ武ハ焼ハ下ハ二下ハ日ハ方ハ同側ハ山大久保
新焼又同西方ハ老下一下同　東橋下ハ元南側山御稜橋ハ東ハ半下焼ル同西
小笠原ハ東橋中中ハ新ハ堂大彼橋井上統浅橋上ハ〳〵元東ハ方ハ大炭方
(卅一)武ハ西方上野新ハ下同南方石川養橋上廣養寺ハ橋上廣養
新焼武ハ武家所ハ大彼橋ハ又ハ同ハ義一ハ西ハ新ハ〳〵
〈谷中天王寺堂宇ハ大塔九輪ハ杉森屋下八形下同西方
玉林寺ハ下同ハ方新橋湯焼同西側大寺ハ同西天王寺ハ下ハ大彼橋ハ

不動堂多〳〵△不忍池弁天社堂焼失焼失破損堂社地ハ池中弧島堂宇共ニ
方ハ堂ゞ揺落〳〵△上野池の端ハ池の端まゝでの所ハ崩不堂ゞ多〳〵

(世二)池の端仲丁ハ長屋揺落〳〵て家庫とも安体のものハ少〳〵物置ども仲一番ハ
家内焼失家居潰れ遠ゞ分家不ハ多〳〵仏堂ハ多く崩△日光寺丁
壹丁目武丁目湯橋際迄焼る仲〳〵多方松平備後様ハ外藩安ものを焼
東方池の端沿ひる△日光方根津権現社門不破損

(世三)根津権現社堂焼境内不破損日七ツ半ゞ半焼る此辺武家町家崩不
多く焼失日おん日不曜里ゆ結ひ下丁横丁辺ハ大破損景多〳〵

(世四)丁谷坂下丁壹丁目大破損二丁目よりあ例焼ハ方なお長横丁ハ焼る少
照国神社ハ焼る西方二丁目横ハ軍曹丁西方お戦場ハ焼る少方ハ日光
目焼る△日不東叡山ハ焼日不西ハ多る所ハ崩不多る所ハ崩
方ハ松の辺ハ大破損ハ焼失日おん△金杉辺武家方小屋家民家とも



以ての外の騒動なり家中一九中たちまち
半ばちさ十ばかりくに方仲間のごとくして
土の方へ落ち張り又天井の板ぬけ九たちを
陸遠と家其ほか土を塗く使入にの長い
さ九ふ重ゝるゞ〜ふ〜今度の地震のごとく
往来平地を揺ぐ割る震動
あるゆ山中深く地面たるりの
何安侍あるべきさまに揺出まる
中み其最寄の世ゝ家ふ来ゝる
○本に新町家ふ九新浅其中ゝこの屋
ゝ家ゝ月出ゝ出ゝ住居家の中へ落ゝの
日所板板板七新浅○日来丁二丁目

四新○日三丁目ゝ新日五丁目
一新日六丁目武新日九山業牧
四新其中谷底次ゝ家居ゝの
日元町五新○陽為天神門前
四新○日地本丁一新日三組丁二新
○日六丁目二新日越丁一新
○日なるゝ横丁二新
○神田四神社内二新
右の分町〜お紀まく
多家分ゝ分ゝ
告祥ゝ〜ゝ殺
無事暮して居るそ

○夏ふ年明

新町ふ三河住長兵衛と
いふ人あり浮世渡世て最繁昌
あり〜し其妻ゝよ廿二日の夜
家内皆暮ゐる内南方の男子ふ
小夜させんと逃へゆるふ打ゆ〜
右地震ふて所那と狹業の所へ立返ん
とゝるふ大地の震動強〜て衣類家財さ
究の中へ滅亡とゝよ廿小児と抱る侍一左
喫て居人ゝ見ふ狹まゝ長兵衛ゝ人ゝを立
張て殺んとゝるゝ所の中山家ふ於打の根
ゆゝみ大家崩倒佐ふ蔵ゝる四人残念なゝら

殺る測ゝ歩く時ゝ人ゝ〜ゝふ其家崩倒ゝて
四方ふ火の災起〜ゆ〜ふ孫丸ゆゝ〜我身
ゝゝる最危〜右地震る夜ふ内ふ火い
強〜し時ゝ余動い止ゝ難ゝ
ゝ死ふゝ丸崩ゝて除去中ゝ
姫せゝるふ右ゝゝ女い小児の足ゝ抱
ゝる侍母ゝ去ふ災変死年
ゝゝ去ふ更ゝ公ゝ人ゝ
逃ふ歌の但ふ申ゝ変幸ゝ〜
ゝ天災ゝふ惟実ふ歌ふ命あ
ゝ所ゝ〜ゝ其後孔の長寿ゝ教ゝ〜ゝ
難産の時ゝ産ゝ死ゝ地ゝ〜今住茅世もゝん

△根津七郎丁門屋敷にて平右衛門の母妻幼子娘三人共に切殺され候今年十七歳ゆへ
書女人共に切殺され候十六歳実は女と大なる違ひ
殺害の事一切無之候由の事
女人殺害有之候者仏御前の母妻幼子娘三人共に其所にて殺害
根津一郎左衛門殺害の由人数多よりの
捕方に合て西に帰るゆへ
出張の下知有之候
繼ぎ合せ候事不実を法天王の戒の文を怨べし
△池の端松平出雲守様代官の地蔵寺
根津七郎丁を二軒ゆへ四家三軒
の家民ある故殺せ申候
放あり居根の種と一粒万倍といへり
梵天帝釈法天の加護あるべし

元屋敷焼失ゆへ
△裏塩屋大ゆへ表焼く元屋敷焼失のごとし
大破損尚ゆへ
稲荷社本社
△湯島天神本社
△神田明神破損
上屋敷表長家尚
大破損尚ゆへ
一 鯉 三拾貫文
一 鮒 三百匁
一 味噌 五十樽

△裏塩屋月番里番結太田場
△深井巣鴨
△湯島五丁目
△湯島五丁目
△月番建部様上中屋敷
△月番小石川丁
△月番
湯島三丁目
湯の井
九兵衛
大工棟
彩之助

一　白米壱年外ニ金弐朱ツヽ　地面一形ヘ　銀色丁　酒屋　高崎屋集

△本町壱丁目ヲ焼出シ為而ハ新色富士町丁目而者祥流ハ町丁ハ丁洲新丁白山色丁目ヲ焼捨為ル△鶴ヶ崎ヶ窪ハ竜丁色丁目ヲ焼捨△壱丁目分智地龍色丁目ヲ焼捨為而ハ

△上新田ハ株ハ南方百足稲荷ヶ谷ハ目而ハ江戸ハ丁の北方小南義丁目ヲ焼為而ハ

(世五)水戸様より小石川ハ而ハ本丁目ヲ焼捨△水戸侯参平氏ニ方武家町家大ハ焼れ洲ヶ家ハ一目而南方ハ壱丁目焼捨東方ハ中仮堀牧熊谷荒川氏ハ壱丁余焼此ハ壱武家丁目焼捨目而ハ裏方町家焼而ハ多ク

(世六)牛天神下ハ壱丁焼る△猪名洲本壱丁ハ焼捨目而裏ノ辺焼為ル

△青山獲指院丁堀色丁目焼捨△後絶坂冥ハ目焼丁雑司谷丁ハ迄壱ノ焼丁色丁目焼捨△雑司谷鬼子母神ハ本壱丁目而ハ焼捨△巣山法華堂ハ焼捨△

△牛込矢来下の名ハ本次と申ス所の山ハ獅の懸て為ル右十月二日午刻迄色の人ハ皆て壱ツ今夜ハ為ル所ハ天災あらん何ぞ為ル所ハ為て色迎色ハ我い安全の地へ立退んと為ル色ハ其訳を尋ねと止る人ハ色ハ別退ハ倒近山ハ方為ル色ハ武家丁目焼捨目而ハ裏方町家焼而ハ多ク

(世八)牛天神下ハ壱丁焼る△猪名洲本壱丁ハ焼捨目而裏ノ辺焼為ル

△青山獲指院丁堀色丁目焼捨△後絶坂冥ハ目焼丁雑司谷丁ハ迄壱ノ焼丁色丁目焼捨△雑司谷鬼子母神ハ本壱丁目而ハ焼捨△巣山法華堂ハ焼捨△

△牛込矢来下の名ハ本次と申ス所の山ハ獅の懸て為ル右十月二日午刻迄色の人ハ皆て壱ツ今夜ハ為ル所ハ天災あらん何ぞ為ル所ハ為て色迎色ハ我い安全の地へ立退んと為ル色ハ其訳を尋ねと止る人ハ色ハ別退ハ倒近山ハ方為ル色ハ武家丁目焼捨目而ハ裏方町家焼而ハ多ク

我ハ色を信ド今ハ色為ル所ハ色ハ獅ハ為ル其夜彼地震有ハ

本次の初ハ始て地震ハ為ル度ハ海ハ一人ハ為ル為ル扨又地震ハ為ル度ハ海ハ

獅懸の家ハ返ハ為ル間ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ安ハ為ル

本ハ為ル所ハ人ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル

獅懸ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル

ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル

獅懸の本次ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル

安ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル人ハ為ル色ハ為ル

△平迦丁浅野勇次とゆへあり氏人吉原大黒屋の長瀬川と深く契り心程
まなくるものゝ〻き其内切なみもて花せひ遂さんと要ちの体故〻ゝ左勇次は日比
日所善園寺の昆沙天と伝ふる由〻系統〻其帰途に一人旅僧ゝ貧窮ちい何方
なると尋ねる由〻一々の所〻と答へゝ〻ゝ僧示て曰足下今革命の相あり流て伝
ふ帝と最不祥〻と云ふ僧〻自足下い神仏を尊〻
ふ体由〻色と〻〻せん若此ゝを信ぜば化ゝまるゝゝ其源更ゝ及ぶべ帰宅まべ
ホバ泊ゝい泊ゝ由〻と云ふ一礼を面て帰宅〻右左まる旋〻利ゝ出来て儀革
へゝ行ゝるゝ其序なべとて老僧川方へ行酒宴〻接待まる左や更刺ゝ成〻ゝ
不斗彼僧の言〻と云ひ出〻帳と尋ゝ出〻切ゝ止ゝ礼其終ゝ変と立出ゝ
と為ゝ所右地震ゝて大ゝ狭〻ゝ者ゝ所の方と為ゝ所皆の乃ゝ所ゝ宴祝落
地者の冷ゝさゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ大ゝ屋〻近隣大きゝ門ゝ入ゝ人と報出〻ゝ〻ゝ夜
泊ゝまべ変宴祝業ゝ起べきゝ不ゝ儀ゝ命と流ゝ〻ゝ善伝ゝの他ゝ〻ゝ

△祝事ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻

衆有りと雖ども先人居て恙なくして彼二日の真雲の発きて雷雨忽ちに
やーさくとろろぬ丈夫い者、孤と侶ド、孤国い巷族と国とも偕続も幸べ
きみあらぶ況や実地の孤絶あり殊更功の者と共多の成だ〜〜
△甲列の絡貫人義介と〇人去十月二日中仙道熊谷宿と共に江戸へ入ら
んと道と為る中其日い何とも〜〜孤次日果どこも浦和宿にて日い暮
けまさに宿業の犯合あ〜〜さまざま道中とのもぐ藪宿板橋あ打もぐさて
鶴聲が四方で鳴〜〜ぱい夜刻ゆ〜〜て程も遠とゆもぐ所ゆ北東の方より
南方へ向て多勢の中ゆ青光りあるものの列風のごとくひぐきまろう光
さるよと見るうちゆ怒動揺の音もまぶ〜〜恐怖〜〜て地とゆ倒る義大地
震ゆて色色の家倉の崩落ゆ実ゆ大揺も引裂うと思だろうゆて
義のごく更ゆ地震と為〜〜ぶると〜〜北東の地震の前兆あ〜〜ん〜〜
右と同容の変事と申るもの浅草ゆて江戸人ゆ見日揺ら者ふぞ